

ネパール砂防技術協力関係者の皆様

在ネパール日本大使館の吉野です。

本年もよろしくお願いたします。

新年のご挨拶に併せまして近況報告をさせていただきます。

一昨年の和平合意により、和平が進むと思われていたネパールですが、昨年 6 月に予定されていた制憲議会選挙が 11 月に延期され、さらに 11 月の予定が延期されるなど、あまり進展が見られませんでした。年末には暫定憲法が改定され、ネパール暦での今年中、西暦の 2008 年 4 月 12 日までに選挙を実施することが決定されましたが、いまだ暫定政府は選挙の実施日をアナウンスしていません。

ネパール人の方に聞いてみても選挙実施の可能性については様々な意見があり、マスコミの論調、外交団の意見も同様で、果たして選挙が実施されるのか見通しはわかりません。暫定政府を構成する 8 党がそれぞれの思惑により議会で駆け引きを続けており、なかなか進捗が見られない平和への道筋ですが、もうしばらく状況を観察する必要がありそうです。

タライ平野のマデシ系住民を中心とした活動も活発であり、度々抗議活動や治安機関との衝突が発生しており、マデシ系国会議員による新党の結成の動きもあります。政府 8 党は、承認は制憲議会選挙で行うとの事ですが、王政の廃止とともに連邦共和制への以降を決定しており、選挙実施後のこの国の形がどうなるのか不安はつきません。制憲議会選挙が無事行われ、和平プロセスがさらに進展するよう、日本としても紛争の被害の影響を受けた地域におけるインフラ整備など、経済協力を有効に活用しながら支援しているところです。

昨年の雨季も各地で災害が多発しました。特にタライ平野の洪水と土砂災害により多くの人命が失われるとともに、農地や家屋などの資産の流出、道路の寸断が発生しました。この時期にはネパールのみならず、同じガンジス川水系のインド、バングラデシュにおいても大きな洪水が発生しています。これらの国々では基本的な水文情報の共有もされていないようです。我が国はネパールの治水砂防分野への支援を続けている唯一と言っても良い国ですが、ネパールに移転された技術や知識を南アジア諸国に発信していくことも一案ではないかと考えています。

明るい話題ですが、昨年の空路入国者数は 50 万人を突破し、観光業を中心に経済は賑わいを見せています。マオイストの活動が収まり、以前より安全に観光を楽しむことができるようになりました。ネパール航空は相変わらず機体の故障で飛んだり飛ばなかったりです

が、新規国際線の乗り入れも大幅に増加し、香港、シンガポールへの就航も増えました。海外出稼ぎ労働者からの送金も増えているようで、国内の銀行を中心とした民間投資も盛んで水力発電所への投資等も計画されています。

しかし、今乾季の計画停電も6日から週15時間に増え、さらに10日からは週36時間（午前と午後3時間づつを週6日、週1日は停電の無い）とお知らせがありました。昨年の同時期は週9時間でしたので、だいぶ早いペースです。経済活動は活発ですがそれにとまなう電力、道路、水道などのインフラ整備が追いついておらず、この1年間に新たな発電施設は稼働を開始していません。豊かな水資源を有する国ですので、和平が進み国内が安定すれば国内および海外からの電力への投資も活発になると考えられますので、国の発展のためにも和平への支援を進めたいと考えます。

最後の私たち家族の事ですが、この一年、発熱、下痢（私はジアルジアも経験しました）や嘔吐など、おそらく食べ物に起因する体調不良は皆度々あったものの、大きな病気や怪我などもなく暮らすことが出来、病院の世話にもならず済みました。今年は上の息子が小学3年生に、下の娘が小学1年生になりますが、今年一年病気や怪我もしないように心がけたいと思います。また、邦人避難が必要な状況だけにはなりたくないです。

BCCにて国土交通省関係者、ネパール砂防技術協力関係者の皆様に送付させていただきました。